



一般社団法人日本養鶏協会 第70回定時総会開催報告

～理事会決議により秋田善祺氏、特別顧問に就任～



6月25日（火）東京・大手町 サンケイプラザにおいて、多くの会員の皆様のご参席を得て、日本養鶏協会第70回定時総会が開催されました。

冒頭、齋藤利明会長ご挨拶ののち、ご来賓の内閣官房参与 西川公也先生、農林水産省生産局畜産部畜産振興課長 伏見啓二様、公益社団法人中央畜産会常務理事 近藤康二様よりご祝辞を賜りました。

その後選出された協会理事 中林政義議長のもと、平成30年度事業報告、令和元年度事業計画及び収支予算の報告がなされ、下記第1号～第4号議案が原案通り可決されました。

第1号議案 平成30年度計算書類等に関する件
(公益目的支出計画実施報告も含む)

第2号議案 令和元年度会費の賦課及び徴収方法に関する件

第3号議案 定款の一部変更（第21条）に関する件

第4号議案 理事19名・監事3名の選任に関する件

総会終了後、新役員による理事会が開催され、理事による互選の結果、会長・筆頭副会長・副会長・専務理事が選出されました。（次ページをご参照願います。）

また総会において会員から出されたご意見を踏まえ、以下の決議がなされました。

- ・アニマルウェルフェア対応予算の総額2千万円への増額修正
 - ・秋田善祺氏（一般社団法人広島県養鶏協会会長）への特別顧問就任要請
- 7月1日、同氏は当協会特別顧問に就任致しました。



一般社団法人 日本養鶏協会 役員名簿

会長	齋藤 利明	知多養鶏農業協同組合 組合長
筆頭副会長	杉原 勲	徳島県養鶏販売農業協同組合 代表理事組合長
副会長	秋田 正吾	株式会社 アキタフーズ 代表取締役副社長
副会長	岡田 一弘	鹿児島県養鶏協会 会長
専務理事	浅木 仁志	学識経験者
理事	落水 日朗	長崎県養鶏協会 会長
理事	川村 悌志	愛知県農業水産局農政部畜産課長
理事	吉川 栄浩	広島県農林水産局畜産課長
理事	小林 茂雄	全国農業協同組合連合会 畜産総合対策部長
理事	志村 浩幸	宮城県養鶏協会 会長
理事	鈴木 憲一	茨城県養鶏協会 会長
理事	仙田 学	三重県養鶏協会 代表監事
理事	高野 英夫	青森県養鶏協会 理事
理事	中林 政義	日本養鶏農業協同組合連合会 代表理事会長
理事	中山 晋吾	兵庫県養鶏協会 会長
理事	彦坂 誠	神奈川中央養鶏農業協同組合 代表理事組合長
理事	廣井 洋司	奈良県養鶏協会 副会長
理事	松本 義治	(一社) 広島県養鶏協会 副会長
理事	宮澤 哲雄	(一社) 千葉県農業協会理事養鶏部会長
監事	荒牧 洋一	大分県養鶏協会 会長
監事	磯ヶ谷正徳	栃木県養鶏協会 会長
監事	須田 孝	(一社) 全国鶏卵養鶏団体連合会 常務理事

令和1年6月25日

日本畜産物輸出促進協議会 鶏卵輸出部会 第5回通常総会開催報告

日本畜産物輸出促進協議会の鶏卵輸出部会（会員数 66名）の第5回通常総会が6月28日（金）の15時からTKP東京駅八重洲カンファレンスセンター（中央区京橋）にて開催されました。平成30年度の事業報告及び収支決算及び令和元年の事業計画案／予算案が承認された後、役員の変更が行われました。

当会からは秋田副会長と落水理事が新たに鶏卵輸出部会の新理事に選任され、落水理事が鶏卵輸出部会の部会長、秋田副会長が副部会長に就任し、副部会長は3名体制となりました。（当会出身以外の理事・監事は今回留任です。）



2019年IEC秋季大会参加のご案内

来る9月22日から26日にかけて、IEC秋季大会がデンマークのコペンハーゲンで開催されます。つきましては、本ミーティングへのご参加につきまして、下記のとおりご案内させていただきます。

詳細につきましては後日改めてご連絡し、ご参加のご希望を募りたいと存じます。

2019年IEC秋季大会 開催日程

日時	令和元年9月22日(日)～26日(木)	5日間
会場	デンマーク コペンハーゲン・マリオット・ホテル	

HACCP手引書作成協議会からのお知らせ

日鶏協ニュース5月号にて、先般公開されたHACCP導入の手引書についてご案内致しましたが、今後のHACCP制度化、普及促進の一環として、本手引書に基づいた研修会を開催いたします。

開催日時、応募要領等詳細につきましては、(社)日本卵業協会ホームページをご覧ください。

<http://www.nichirankyo.or.jp/haccp-kensyu/>

皆様奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

中央鶏卵規格取引協議会からのお知らせ

本年度の鶏卵規格取引研修会を下記の通り開催いたします。

鶏卵規格取引要綱(農林水産省事務次官通知)に基づき、新たに鶏卵の格付け責任者(卵重計量責任者)となる方及び格付け責任者の指導を行う方は、本研修を受講して下さい。

応募要領等詳細につきましては、日本養鶏協会ホームページに掲載しています。

<https://www.jpa.or.jp/news/item/2019/0610/index.html/>

定員になり次第締め切りますので、お申し込みはお早めに。

令和元年度 鶏卵規格取引研修会 開催日時

東京会場	令和元年9月20日(金)	10:00～16:30	(於) 馬事畜産会館
京都会場	令和元年9月27日(金)	10:00～16:30	(於) 京都リサーチパーク



鶏卵公正取引協議会からのお知らせ

鶏卵の表示で留意するポイント その1

鶏卵の販売時、パッケージ等の表示には十分注意してください。

景品表示法では、商品・サービスに関する不当な表示は禁止されています。

景品表示法で禁止されている事項：

1. 優良誤認表示（第5条1号）

……たとえば「これはとても良い品質だ！」と一般消費者に思わせておいて、実際にはそうでない表示のこと

例1：「抗生物質不使用」と表示した場合、そもそも産卵鶏（10週齢以上）への抗生物質飼料の使用は認められていないため、表示した鶏卵のみが抗生物質不使用の鶏卵であるという誤認を消費者に与えかねず、不当とされます。
（食用鶏は抗生物質飼料の使用が認められているため、抗生物質を使用していない鳥を「抗生物質無投与鶏」と表示する場合があります）

例2：栄養成分を「他社の2倍」としていたが、実際には同じ量しか入っていなかった。

2. 有利誤認表示（第5条2号）

……たとえば「これはとてもお得な価格だ！」と取引相手に思わせておいて、実際にはそうでない表示のこと

◆消費者庁長官は、優良誤認等に該当するか否か判断するため必要があると認めるときは、事業者に表示の裏付けとなる合理的な根拠を示す資料の提出を求めることができます。

事業者が合理的な根拠を示すことができない場合、不当表示とみなされるおそれがありますので、要注意です。（鶏卵公正取引協議会の非会員の場合は、直接消費者庁より措置命令や課徴金が課せられることがあります。会員の場合は、規約を遵守している場合、景表法罰則の適用除外があり、協議会からの是正依頼等の対応となります）

表示に関するご相談や新規入会ご希望の方は、協議会事務局までご連絡ください。

鶏卵公正取引協議会 事務局		担当：重本、田淵、大塚
e-mail	teritama@jpa.or.jp	会員証紙 (公正マーク)
Tel	03-3297-5516	
Web	https://www.jpa.or.jp/keiran_root/	

インパックラベル封入による消費者への情報提供活動のご報告

厚生労働省が公表する「日本人の食事摂取基準 2015」において、コレステロールの摂取目標値が撤廃されました。これにより、卵の喫食と血中コレステロール濃度に密接な関係はなく、健康な人であれば卵を1日2個以上食べても脳卒中や心臓病には影響が無いことが証されたこととなります。

しかし、卵と血中コレステロール濃度の関係性を正しく理解する人の割合は、増加傾向にはあるものの19.3%に留まっており（キューピーたまご白書2018より）さらなる啓発・告知活動の必要性が求められているところです。

こうした中、「鶏卵知識普及会議」（事務局：一社）日本卵業協会、メンバー：JA全農たまご・キューピーたまご（株）一社）日本卵業協会・一社）日本養鶏協会）では、消費者へ鶏卵の正しい知識普及を推進していく試みの第1弾として、鶏卵業界関係者のご協力をいただきながら、鶏卵に関する情報を掲載する企画サイトを立ち上げ、そこへ誘導するQRコードを印刷したインパックラベルを作成し、イースターを含む期間（4/15から約1ヵ月）、約1,700万枚を全国で販売される卵のパックに入れて発信しました。



ラベルの一例

このラベルをご覧になった多くの消費者が、印刷されたQRコードを利用して当該企画サイトへアクセスされました。

実訪問者数 : 16,878人 (0.1%)
ページ閲覧数 : 21,110件
(同一の方が別のラベルを使用し閲覧したケースを含む延べ件数)
全ページ閲覧数 : 29,158件
(訪問ページから他のページに移動したケースもカウントとした総閲覧数)
(集計期間は4/14~6/3。割合は、総配布枚数約1,700万枚に対する数値)

プレゼントを行うこともない純粋な情報提供の企画としては、関係者一同にとって嬉しい訪問割合となりました。

ご協力くださいました業界関係者の皆様、どうもありがとうございました。



企画サイトについて

トップページ

<https://sites.google.com/view/moreegg/top> ページ



ページ内容 (閲覧回数の多かった順)

- 「子供と作れるおいしい簡単レシピ」
- 「日本人の食事摂取基準が変わりました」
- 「朝食にたまごの新知識」
- 「たまごの秘密を教えます」
- 「たまご1つで理想の栄養バランスに近づきます」

鶏卵知識普及会議では、今後とも消費者の皆様へ「鶏卵の正しい知識」を広めていく活動を継続していきたいと考えております。メンバーの一員である日本養鶏協会といたしましても、従来より実施している「普及啓発活動」として連携できるところは密接に連携しつつ、消費者への普及啓発活動を進めていく所存です。

協会活動報告

青字下線部クリックで、(一社)日本養鶏協会ホームページ内該当事業のページが開きます

鶏卵生産者経営安定対策事業

① 価格差補填事業の事業参加者との契約数量 (トン/月当たり)

平成 28 年度	164,846
平成 29 年度	162,353
平成 30 年度	169,171
令和元年度	167,141

② 6月の標準取引価格 148.97 円/kg

平成 3 1 年度補填基準価格 185 円/kg

平成 3 1 年度安定基準価格 163 円/kg



日鶏協ニュース

令和元年7月号
一般社団法人 日本養鶏協会

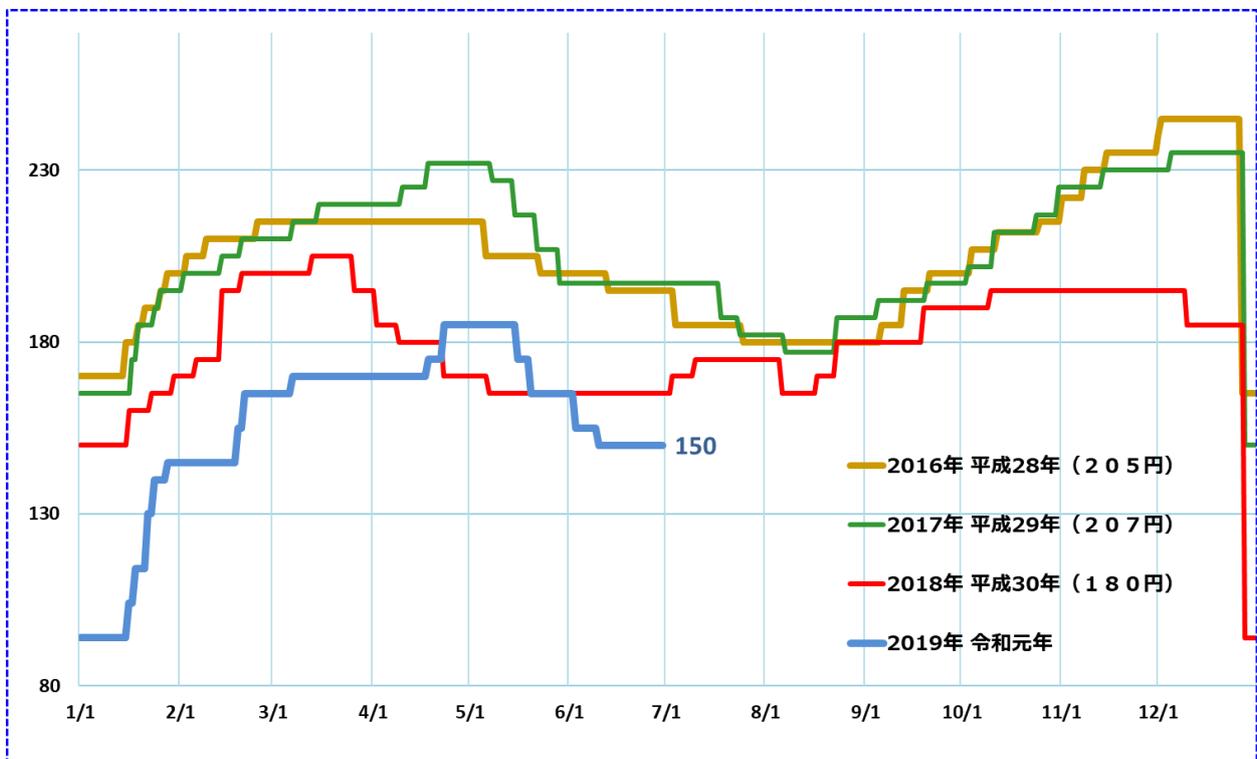
統計データ

【相場動向】 過去 10 年間の 6 月相場<東京全農Mサイズ>

	平均値	高値	安値
平成22年	183	208	169
平成23年	190	223	179
平成24年	161	183	154
平成25年	155	178	147
平成26年	199	218	189
平成27年	223	248	214
平成28年	197	218	189
平成29年	197	215	191
平成30年	165	183	159
令和元年	151	173	144
平均値	182	205	174

令和元年6月の鶏卵相場(東京全農Mサイズ)は、令和プレミアムの5月相場から一転、平均値(151円)、高値(173円)、安値(144円)ともに、過去10年間で最低の相場となっています。

【鶏卵相場推移 2016年～2019年 東京全農Mサイズ 円/kg】



卵価は月初から155円をつけ、10日より150円のまま月末まで推移しています。成鶏更新継続中であり、今後の動向につき注視が必要です。



日鶏協ニュース

令和元年7月号
一般社団法人 日本養鶏協会

【鶏卵関係主要計数】平成31年4月までの1年間の主要計数推移

注：雛餌付羽数は全国推定値

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成鶏用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千トン)	前年比	数量(グラム)	前年比	前年	本年
5月	10,035	111.1%	503	101.2%	965	108.4%	216	165
6月	9,193	94.2%	482	101.6%	908	107.7%	197	165
7月	9,902	111.4%	446	98.0%	844	97.4%	191	173
8月	8,723	104.6%	488	99.9%	853	100.5%	182	172
9月	8,897	98.7%	451	97.2%	882	102.8%	194	184
10月	9,972	108.1%	508	104.2%	913	100.4%	211	194
11月	9,690	101.8%	502	101.6%	901	100.2%	228	195
12月	8,709	95.9%	533	99.6%	934	99.8%	234	188
31年 1月	9,706	103.4%	490	102.4%	881	99.1%	159	121
2月	8,293	91.8%	464	100.6%	827	96.0%	189	152
3月	8,996	90.5%	494	95.6%	914	102.0%	201	169
4月	9,227	97.1%	503	106.2%	900	101.7%	179	174
1年間合計平均(%)	111,343	100.7%	5,864	100.7%	10,722	101.3%	198(平均)	171(平均)

- ・雛餌付羽数は、9,227千羽（前年比97.1%）と前年比2.9%減ですが、年間では未だ前年比を0.7%上回っています。
- ・配合飼料出荷量は、503千トン（前年比106.2%）と前年を6.2%上回っており、年間でも前年比を0.7%上回っています。
- ・鶏卵の家計消費量は、900グラム（前年比101.7%）、年間でも前年比1.3%増と堅調に推移しています。
- ・雛餌付羽数、配合飼料出荷量とも上昇基調にあり、引き続き鶏卵価格の動向につき注視が必要です。

配合飼料供給価格の動向

全国農業協同組合連合会（JA全農）は、令和元年7～9月期の農家向け配合飼料供給価格について、シカゴ定期は上昇するものの、為替の円高などによりとうもろこし・大豆粕価格が値下がりすることから、平成31年4～6月期に対し、全国全畜種総平均トンあたり約400円値下げすることを決定し公表しました。なお、改定額は、地域別・畜種別・銘柄別に異なります。

区分	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
平成31年	↑ 500	▼ 850	▼ 400	—
平成30年	↑1,500	↑1,100	↑1,550	▼ 800
平成29年	↑1,950	↑ 700	▼1,100	▼ 400
平成28年	▼ 700	▼3,700	▼ 800	▼1,650
平成27年	↑2,550	▼ 750	▼1,800	据え置き

単位(円/トン当たり) 出典：全国農業協同組合連合会（JA全農）「配合飼料供給価格」

日鶏協ニュース 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内（5階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2019年7月2日

編集・発行責任者：浅木 仁志(info@jpa.or.jp)

